

公益社団法人 地盤工学会 調査・研究部
 令和元年度第1回調査・研究部全体会議 通算第1回調査・研究部会
 議事録

日時	令和元年6月27日(木) 15:00~18:00			場所	地盤工学会会議室	
部長	高橋 直樹 (三井住友建設)	○	理事	川端 伸一郎 (北海道科学大学)	○	
副会長	堀越 研一 (大成建設)	○				
幹事長	高野 大樹 (港空研)	○	副幹事長	森口 周二 (東北大学)	◎	
前部長	中野 正樹 (名古屋大学)	○	前理事	山中 稔 (香川大学)	×	
前副会長	木村 亮 (京都大学)	◎	前幹事長	大竹 雄 (新潟大学)	○	
研究・連携・情報委員会			幹事	鈴木 健介 (鹿島建設)	○	
ワグ幹事	橋本 則之 (不動産トラ)	○	★部員	山田 卓 (大阪市立大学)	○	
★部員	中井 健太郎 (名古屋大学)	×	ワグザ-ハ	後藤 茂 (早稲田大学)	○	
研究発表会委員会			幹事	笠間 清伸 (東京工業大学)	○	
★ワグ幹事	清田 隆 (東京大学)	×	部員	内村 太郎 (埼玉大学)	◎	
部員	高井 敦史 (京都大学)	◎	ワグザ-ハ	高野 大樹 (港空研)	○	
前部員	山中 稔 (香川大学)	×	前ワグザ-ハ	肥後 陽介 (京都大学)	×	

配付資料

資料番号	資料
資料-1-1.0	平成30年度 第4回 調査・研究部運営会議議事録(案) (H31/1/10 開催)
資料-1-1.1	令和元年度調査・研究部会構成案および組織と規程類
資料-1-1.2	調査・研究部 規程、運営細則、研究・情報委員会細則
資料-1-1.3	調査・研究部 令和元年度事業方針・計画、予算、年間スケジュール
資料-1-1.4	第56回地盤工学研究発表会 開催支部への依頼
資料-1-1.5	今年度新設研究委員会構成案
資料-1-1.6	研究委員会年間計画・予算アンケート
資料-1-1.7	次世代地盤改良技術に関する研究委員会活動状況報告
資料-1-1.8	「福島第一原子力発電所構内環境評価・デブリ取出しから廃炉までを想定した地盤工学的の新技術開発と人材育成プログラム」2018年度収支報告書および2019年度業務計画書(抜粋)
資料-1-1.9	令和元年度理事会議事録(案) (R1/5/17、6/14 開催)
別添資料-1	研究委員会変遷のまとめ
別添資料-2	昨年度活動終了研究委員会成果報告書

- I. 前回 (H31/1/10 開催) 調査・研究部会全体会議議事録の確認 (資料-1-1.0, pp.1-5)
 ⇒前回 (H31/1/10 開催) 調査・研究部会全体会議議事録が確認された。
- II. 全体関係
 [報告事項]
1. 調査・研究部会、常設委員会構成の確認 (資料-1-1.1, pp.6-7)
 - 1) 令和元年度調査・研究部会 体制案
 ⇒所属などに誤記があれば事務局に連絡すること。
 2. 調査部、委員会の役割を説明。自己紹介。 (資料-1-1.2, pp.8-16)
 - ・研究部規定類の見直し
 - 1) 調査・研究部規程
 - 2) 調査・研究部運営細則
 - 3) 研究・連携・情報委員会細則 → 研究・情報委員会細則
 ⇒見直し、修正を進めていることが報告された。
 各位確認したうえで、修正点あれば報告してほしい。
 3. 調査・研究部令和元年度事業方針・事業計画、予算、年間スケジュール (資料-1-1.3, pp.17-21)
 - 1) 方針・事業計画
 - 2) 年間スケジュール
 - 3) 予算
 ⇒事業方針、計画について説明された。役割と担当については各自確認すること。
 事務局より予算 (第3次案) 説明。
 4. 創立70周年記念事業の調査・研究部担当 (別添資料-1)
 - 1) 第13回環境地盤工学シンポジウム
 - 2) 研究委員会の変遷のまとめ
 ⇒2) について、大竹前幹事長より研究委員会の変遷のまとめ (昨年度に整理) を説明。
 部会の複雑化した役割の整理整頓、問題点の抽出など議論の過程をまとめている。
 積み残し課題は今後議論してほしい。
 各委員会の活動履歴の整理については、支部レベルとの関連性との整理も必要との意見を受けて、中野前部長より調査・研究部会としての在り方を再度整理したい旨コメントがあった。70周年記念行事での説明要請に対しては、大竹前幹事長より整理・分析のためにWGとして対応したい意見があり、高野幹事長、森口副幹事長が応援。
 5. 東日本大震災合同調査報告書の商品在庫数 (5月末現在)

Aセット (3冊組、20,000円) : 7セット/100セット、 Bセット (2冊組、14,000円) : 189セット/200セット
 共通編 : 12冊、 地盤編1 : 102冊、 地盤編2 : 62冊
 ⇒事務局より報告された。
 6. 第56回地盤工学研究発表会 (2021年、東北) 依頼文 (資料-1-1.4, pp.22-24)

⇒依頼分修正中。参加費はこれから本部 (調査・研究部会) 主導で決定するよう修正した。
 8月目途で依頼文提出予定。修正内容含めメール審議する。
 7. 過年度未収金

エネルギーに基づく液状化予測手法に関するシンポジウム (2019.3.26) 1件 5,000円
 ⇒事務局より未収金があったことを報告。

Ⅲ. 研究・連携・情報委員会

[審議事項]

8. 研究委員会関係

1) 新設委員会

(資料-1-1.5, pp.25-27)

①地盤環境汚染対策の科学的合理性判定のための調査・試験・評価法に関する研究委員会

委員長： 乾 徹 氏 (大阪大学大学院 工学研究科)

活動期間： 2022年3月までの3年間

応募期限： 2019年5月7日 (火)

調査・研究部担当：山田先生

②未曾有の豪雨により複合化した土砂・水災害に遭遇する時代に突入した地盤技術の今後と社会的な方策に関する研究委員会

委員長： 鈴木 素之 氏 (山口大学大学院 創成科学研究科)

活動期間： 2022年3月までの3年間

応募期限： 2019年5月7日 (火)

調査・研究部担当：中井先生

⇒各委員会担当は活動状況を適宜確認すること。委員会幹事から各担当に報告するように要請してある。

メール確認の再にはccで高橋部長と高野幹事長も含めること。

2) 研究委員会予算案

(資料-1-1.6, pp.28-29)

・委員会予算額 35万円/年

・各委員会の活動計画および予算案に関するアンケートを実施

・スケジュール案

アンケート提出期限：8月中旬

調査・研究部審議：8月下旬 (WEB会議)

各委員会への連絡：9月上旬

⇒予算依頼のスケジュールについて確認した。

9. シンポジウム関係

1) 第62回地盤工学シンポジウム (2020年開催)

・2019年10月までにテーマ案決定

⇒鈴木幹事、中井部員が担当することを確認。

テーマ・企画案は皆で議論して練っていききたいので、たたき台を作成しメール発信をお願い。

10. 情報関係

1) 図書室整理の課題に対する対応

・予算確保済み (30万円)

・図書データベース構築

⇒継続して対応することを報告。

[報告事項]

11. 研究委員会関係

1) 昨年度で活動終了した研究委員会の成果報告書

(別添資料-2)

2) 研究委員会活動状況報告

・エネルギーに基づく液状化予測手法に関する研究委員会 (活動終了)

地盤工学ジャーナル特集号。2019年12月号に掲載予定で、11本の投稿論文に対して、現在査読中。

・次世代地盤改良技術に関する研究委員会

(資料-1-1.7, p.30)

2020年シンポジウム開催に向けて準備

・廃炉地盤工学委員会

(資料-1-1.8, pp.31-39)

「福島第一原子力発電所構内環境評価・デブリ取出しから廃炉までを想定した地盤工学の新技術開発と人材育成プログラム」2018年度予算執行報告

「福島第一原子力発電所構内環境評価・デブリ取出しから廃炉までを想定した地盤工学の新技術開発と人材育成プログラム」2019年度業務計画書 (受託額 59,799,688円、内地盤工学会 19,297,514円)

- ・横浜環状北線地盤変動監視委員会（「横浜環状北線の地盤変動監視に関する調査研究」）
2019年度履行期間：2019年3月25日から2020年3月31日／請負代金：1,993,573円
今年度も実施している。特に大きな変状が無ければ今年度で終了の見込み。
- ・遠隔離島における地下空間利用のための調査研究検討委員会（活動終了）
研究期間：平成28年度～30年度（委員長：菊池先生）
2019年6月に最終報告書をHPにアップした
⇒各研究委員会の活動状況について報告された。
高橋部長より新設委員会については最終的な成果を促すよう要請があった。

12. シンポジウム関係

1) 第13回環境地盤工学シンポジウム（2019.9.10-11、札幌）準備状況報告

- ・今後のスケジュール
 - 6月17日（月） 査読期限
 - （7月10日（水） 会場確認（現地幹事・高井））
 - 7月11日（木） 修正原稿提出期限
 - 7月29日（月） 入稿（盆休みを挟むため早めに設定）
- ・論文数
概要提出：92件 → 原稿提出：87件
- ・その他
参加募集会告を学会誌7月号に掲載
参加申し込み期日は8月7日
参加費は事前振り込み制とする
論文集は、冊子体とCDで申し込み時に希望を取る
協賛金
⇒シンポジウムの準備状況について報告された。
企業より依頼があった協賛金については、今まで受入実績がない。
7/10会場確認時に依頼者より具体内容を確認後、総務課に確認すること。
協賛について、提供の是非含めどこまで許容できるのかを確認してほしい。

13. 情報関係

1) 電子図書室の運用

- ・支払方法：クレジットカードのみ
⇒郵便振り込みでの対応が出来なくなりカード支払いのみとなる旨、報告があった。

IV. 研究発表会委員会

[審議事項]

1 4. 今後の検討

・プログラム改革

⇒現場部門およびそのほか分野の人間にとって魅力的なテーマ・分類の創出を目的にプログラム編成を変えたい意見があった。また発表しやすい環境づくりとして「特別技術者セッション」を検討。次回委員会で具体化したい。

・若手座長制度のルール作り。

→感謝状を贈る等、担当した人の成果になるような仕組みがあるといい。

→研究発表会の若返りと活性化を図るため“さいたま大会”では35歳以下の若手技術者を対象とした。

⇒前回大会は高評価との意見が多数。

今年度はゼネコン以外にもコンサルを推薦。年齢制限などルール明確化してより若い人間増やしたい意向。

今後の委員会で議論したい。

※本件は田中副会長主導だったが、ルール化は部会主導でやりたい意見もあった。

・技術展示のより効果的な運営

→出展会社の担当者が会社へ報告しやすい情報を提供する（展示会場への来場者数など）。

→賞を出す（できれば全企業が受賞する←担当者が会社へ成果を報告できる）。理事が採点して順位をつけるのも良い。

→理事の各ブース訪問：お礼を伝える

→調査研究部の各ブース訪問：次年度への改善点のヒアリングを行う

⇒技術展示企業の担当者が自社上層部へメリットを報告できるような運営を考えていく必要がある。

・研究発表会参加証のIC化（事務作業の効率化）

⇒紙名札からIC化を図りたい。参加者数のカウントを自動化したい狙い。

・DSに関する議論

・研究発表会をより魅力的なものにするための方策について検討し、実行する。「特別技術者セッション」

→民間からの参加者を増やす。研究所所属の方だけではなく、設計・現場で勤務する方々まで。

→建築分野の地盤技術者の参加者を増やす。

<全般的な意見として>

研究発表会後のFBがなされておらず、実行委員会同士の引継ぎで非効率的化しているのではとの意見があった。

川端理事より、実行委員会からの蓄積により運営の効率化を図るべきとの意見があった。

また学会HPを利用した参加者意見の募集についても意見有り。

[報告事項]

15. 第54回地盤工学研究発表会

1) 準備状況報告

・概要集データダウンロード：トーヨー企画サーバーの回線速度が遅い。会場のLAN環境も怪しいので、内村先生ご提案のLAN対応を実施する。そのために、追加で27万円程度の費用が発生する。

⇒初日朝、200人の当日受付が予想。USBまたはLAN対応でデータダウンロードを検討。

先日、参加者にデータ事前送付。一部、不具合で問い合わせ有り。Isoの認知度低そう。

・クレジット決済関連：予定通りに公開できたが、その案内をしなかったため問い合わせがあった。

・入金に関する不具合

・事前参加申込者数（5月15日締切）

一般会員：438名、学生会員：27名、非会員（一般）：29名、非会員（学生）：6名

（第53回大会：一般会員：423名、学生会員：29名、非会員（一般）：41名、非会員（学生）：2名）

⇒申込者数についてはほぼ前回大会と同数であることが報告された。

2) 連絡会

日時：7月16日(火) 13:00-15:00 (2時間程度)

場所：さいたま大会の会場

参加予定者：三村先生、渦岡先生、高井先生、上田先生、長尾様、笠間先生、清田先生(研究発表会担当)

議題(案)：

・本部と支部の役割分担について

・その他

16. 特別技術者セッション担当部員（執行部で検討中）

→発注者、ゼネコン、コンサルから各1名

⇒人選難航のため執行部で対応することが報告された。

※例えば現場見学も魅力的とのことで、来年度発表会で実行委員会WGを立ち上げてはどうかとの意見があった。これに対して、高井部員より支部の行事・学術部会で検討することになると思うとのコメント有り。

V. その他

17. 5月、6月理事会報告

(資料-1-1.9, pp.40-48)

⇒中野前部長より報告があった。

18. 理事会（令和元年7月26日（金））開催への審議事項・報告事項

[予備審議事項]

[審議事項]

[報告事項]

⇒特になし。

19. 総務部会（令和元年7月10日（水）開催予定）への提案事項

⇒特になし。

<そのほか>

・次回候補日は8月30日（Web）。以降は、10月8日（対面）、12月6日（Web）、4月3日（対面）の予定。

・調査・研究部の部員に偏りがあるので、コンサル部員を迎えるべきとの助言があった。

・来年度の京都大会後の翌日にオリンピック。早期宿泊先手配のアナウンスをお願いしたいとの意見があった。

★ 令和元年度 理事会 開催日程（予定含む）

① 4月19日（金） ※書面審議

② 5月17日（金）

★ 6月7日（金） 総会／理事会

③ 6月14日（金） ※書面審議

- ④ 7月26日(金)
- ⑤ 9月20日(金)
- ⑥ 10月25日(金) ※書面審議
- ⑦ 11月22日(金)
- ⑧ 12月20日(金) ※書面審議
- ⑨ 1月24日(金)
- ⑩ 2月21日(金) ※書面審議
- ⑪ 3月13日(金)

- ⑫ 4月17日(金) ※書面審議

- ⑬ 5月15日(金)

- ★ 6月5日(金) 総会/理事会